|  |
| --- |
| **モザンビーク月例報告****２０１２年５月** |
| **主要な出来事****【内政】第3回オープン・プレジデンシーにてゲブーザ大統領は，テテ州，イニャンバネ州，ソファラ州を訪問。****【外交】ゲブーザ大統領は，英国を公式訪問し，キャメロン首相との会談等を行った。****【外交】バンダ・マラウィ大統領が，大統領就任後初の公式訪問として「モ」を訪問。****【経済】ENI社（伊）とアナダルコ社（米）は新たなガス層を発見したと報告。２社の発見による埋蔵量は８０兆立方フィート（TCF）超。****【経済協力】21日，日本政府が実施する2011年の食糧援助（630百万円）の代理調達契約が署名された。「モ」における食料安全保障に貢献すると期待されている。** |

１　内政

（１）ゲブーザ大統領の第３回オープン・プレジデンシー

・1日より，ゲブーザ大統領はテテ州を訪問。

2日，カズラ郡にてゲブーザ大統領は集会を主宰し，その際に，同地域住民は，内戦当時に使用された武器が今も隠匿されている事実を告発。これに対しゲブーザ大統領は，戦争が再び起こることがあってはならない旨主張。同訪問にはボルジェス漁業，ビアス鉱物資源，ナマシュルーア行政管理，タイポ労働各大臣，マンドラ内務，ヌクトゥムラ法務各副大臣が同行。

・5日，テテ州訪問を終了したゲブーザ大統領は，かつて同州の主要経済活動は農業であったが，近年の鉱物資源開発による産業活動の活性化により，同州民の生活向上が期待される旨表明。

・26日，イニャンバネ州訪問を開始したゲブーザ大統領は，トゥリンタ同州知事より，マボテ郡及びゴヴロ郡の計2ヶ所において新灌漑システムの建設が年内開始予定である旨報告を受けた。各システムの灌漑面積は1,000ヘクタール。また，ゲブーザ大統領はイニャリメ郡及びマシンガ郡を視察した。

・28日，イニャンバネ州イニャリメ郡にてゲブー

ザ大統領は，Moçambique Orgânica社が毎月ベビー・コーン15トン，唐辛子7トン，インゲン豆5トン及び茄子等を欧州，米，南アへ輸出している旨報告を受けた。同社は，近く335億メティカル(ママ)の投資拡大を見込んでおり，対象面積は400ヘクタール。

・29日，イニャンバネ州訪問終了後記者会見においてゲブーザ大統領は，同州が貧困対策に尽力している旨評価。

・31日，ソファラ州マシャンガにて開かれた同州政府拡大会議においてゲブーザ大統領は，同州における5カ年計画及び開発戦略計画の実施状況に満足の意を表明すると共に，一層の向上心・努力を督励。

（２）第５回会期国会関連

・2日，パウリーノ検察総長は，組織犯罪，汚職，人身売買，公金横流しなどの犯罪に対しもっと重い刑罰を課すべきである旨訴えた。国内における2011年度犯罪発生件数は41,228件，2010年と比較し99件の減少。また，3日，同総長は，憲法評議会に警察庁内規の合憲性に関する判断を要請した。同要請は，ナカラ警察署に隠匿された密輸武器の発覚事件対処の一脈において警察庁長官が警察は司法命令に従わないと発言したことに対するもの。

・数週間前，ナカラにて同市警察署長及び部下3人が銃器不法取扱い容疑により検察庁命令の下逮捕され，一時釈放されていた事件で，カラウ警察庁長官の命令の下同容疑者4人が再逮捕された件に関し，カラウ同長官は，同再逮捕は警察内部の処罰に過ぎず，検察庁の承認は必要ないという態度を示した。

・国会憲法・人権・合法委員会は， オンブズマンのポストへ立候補する2人，ジョゼ・アブウド元司法大臣（FRELIMO党），マキシモ・ディアス弁護士（MDM党）の立候補手続書類を分析・評価した。来週の会期国会にて同ポストへの候補者の選出が行われる予定。

・8日，公務員倫理法案が票決により第1次審議を通過した。同法は，大統領，閣僚，国会議長，同副議長，同常任委員会委員，司法顧問には適用されない。FRELIMO党議員団は同法律の発効日を次期政権成立以降と主張。

（３）その他

・29日，第18回閣議において新経済特別区域の設立が採択された。同区域はソファラ州マンガ/ムンガーサ地域217ヘクタール，民間セクターによる管理が導入される予定。

**２　外交**

（１）ゲブーザ大統領の英国訪問

・7～9日，ゲブーザ大統領は英国を訪問。同訪問は二国間友好協力関係強化を目的とするもので，バロイ外務協力，ニューシ国防，ビアス鉱物資源，インローガ商工各大臣が同行。

・7日，Morgan Stanleys Oil and Gas社取締役と対談したゲブーザ大統領は，「モ」の鉱物資源，金融セクターへの英国企業の投資拡大が見込まれる旨報告を受けた。同日夜，アガ・カーン基金主催による両国企業団参加によるビジネス・セミナーが開催。英国滞在中，ゲブーザ大統領はBP社執行幹部と会談する他，他のビジネス・セミナーにも参加。

・ゲブーザ大統領と英企業ENRC社幹部との会合が行われ，テテ州シウータ～ナンプラ州ナカラ間鉄道建設資金（推定数十億米ドル）が確保された旨発表。同鉄道完成後，初期の貨物取扱量は年間60百万トン，将来的には年間125百万トンの達成が見込まれる。

・9日，キャメロン英首相との会談にて，同首相は，「モ」との関係強化を引き続き重視していく旨表明。また，両者は，当国の天然資源開発や海賊対策に関し意見交換を行った。

・英国訪問後の記者会見においてゲブーザ大統領は，政治･経済の両レベルにおいて英国の対「モ」信頼性を獲得し，二国間パ－トナ－シップの強化を達成したことに満足の意を表明。

（２）サンタガタ伊外相の訪「モ」

・3日，当国を訪問したサンタガタ伊外相は，当国がイタリア援助パートナーの優先国及びアフリカ開発支援における最大裨益国として引き続き協力関係を強化していく意向を表明。

・今般は伊企業団も同時訪問し，同企業団の最大関心事項は，ロヴマ沖における天然ガス。アリ首相との会談においてサンタガタ同国外相は，対「モ」開発援助及び伊投資の継続を約束した。

（３）バンダ・マラウィ大統領の訪「モ」

・12日より3日間，バンダ・マラウィ大統領が来訪。今般の訪問は，バンダ同大統領就任後初の公式訪問となる。今次訪問に外務，エネルギー･鉱山，運輸･インフラ，環境・気候変動対策各大臣が同行。

・12日, 同大統領はゲブーザ大統領と会談。ゲブーザ大統領は，両国関係は新しい段階を迎える必要がある旨強調。他方，バンダ大統領は，自身の今般の訪問で両国関係がより一層促進されることを望んでいる旨述べた。また，バンダ大統領は，先日の「モ」政府による燃料や食料支援及び連帯の表明につき感謝している旨強調した。

（４）エステバン・ラゾ・キューバ副大統領の公式訪問

・21日より，エステバン・ラゾ・キューバ副大統領が当国を訪問。同日午後，首相府にてアリ首相と会談。同会談の目的は，「モ」における保健及び教育分野における二国間関係の強化。特段大きな宣言等はなかったものの，同副大統領は，今後も支援を継続していく旨発表。22日にはゲブーザ大統領との会談も実現。

**３　経済**

（１）マクロ経済・金融・投資

・マプトにて閉幕した「モ」における包括的経済成長に関する会合の閉会式にクエレネイア企画開発大臣が出席。過去10年間における当国の年間平均成長率は約8％，同成長に貢献しているセクターは農業，製造業。今後は，採鉱業，エネルギー･セクターの貢献も期待される旨表明。

（２）天然ガス関連

・ENI社（伊）とアナダルコ社（米）は新たなガス層を発見したと報告。国家石油院（INP）によると，２月にENIが発見したArea4のガス層は７～１０兆立方フィートで「コラル（Coral)」と称され，これにより，同社によるガス埋蔵量は計４７～５２兆立方フィートに上る。この「コラル（Coral)」と呼ばれるガス層は「マンバスル（Mamba-Sul)」の南東２６kmに位置し，深さは４，８６９ｍとされており，INPはこのガス層の起源は他のガス層の起源と別のものであるとしている。同社は，「コラル（Coral)」の試掘後，他の５つのガス田にて試掘を行う予定。一方，アナダルコ社は，ロヴマ沖のArea1の，「ゴルフィーニョ（Golfinho)」と呼ばれるガス田にて４月１２日から試掘を開始。このガス田の推定埋蔵量は７～２０兆立方フィート。アナダルコ社によって発表されている全ガス埋蔵量はこれで５０兆立方フィートとなる。「ゴルフィーニョ（Golfinho)」はカーボデルガード州沖１６kmに位置し，深さは４，５３７ｍ。この２社によって発見されたガス埋蔵量は８０兆立方フィートを超えることとなった。

・Sasol Petroleum International社は，パンデ・テマネ天然ガス精製工場拡大プロジェクトの実施を開始。投資額は220百万米ドル，同拡大後の年間精製量は現在の120百万ギガジュールから183百万ギガジュールに増加の見込み。

（３）電力

・「モ」電力会社（EDM）は，テテ～マプト間送電プロジェクト実施におけるコンソーシアム模索のため，外国パートナーとの連絡を拡大している。同プロジェクト費用は約27億米ドル。

（４）農業

・年内にザンベジア州グルエ郡にてAgro-Pecuaria Rei do Agro社が生産する大豆の輸出が開始される予定。輸出量は推定150トン，相手国は欧州，南米諸国。

・ナンプラ州アンゴシェ郡は国内最大米生産地を目指しており，現在，耕作面積は13,200ヘクタール，生産従事者12,500人強，今農年における生産量は推定26,000トン。

・30日，ニアサ州マルパにて開催中の第6回農業調整審議会の冒頭においてパシェコ農業大臣は，2011/2012農業年における生産量は16,266,611トンに達し，前農年と比較し8.4％増加した旨表明。うち，キャッサバ11,368,912トン（12.6％増），トマト220,276トン（13％増），穀類3,129,678トン（6.9％増），豆類467,611トン（6.7％），採油植物41,090トン（7.6％増），ジャガイモ203,520トン（7.1％），玉葱85,050トン（6.7％），その他野菜750,464トン（7.2％）。

（５）港湾インフラ・運輸

・政府は，年内にセナ線の貨物運輸量を現在の年間3百万トンから年間12百万トンへ増大させる予定。また，マシパンダ線改修も実施中で改修後の輸送量は年間6百万トンが期待されている。

・4日，マプトにてクエレネイア企画開発大臣は，ナカラ回廊経済開発戦略プロジェクトを発表した。JICAが同プロジェクト形成のパートナーを担う。

・インド企業Essar社は，石炭・鉄輸送を目的とする港を建設するため，現在，当国政府と交渉中。同インフラの建設費用は推定612百万ドル，港に加え，ジンバブエを結ぶパイプラインの建設にも関心あり。

（６）道路・橋梁

・マプト環状線建設工事における雇用創出は，工事期間30ヶ月の間で2,500ポスト。また，施行業者の技術者は中国人200人強，工事費用は315百万米ドル，うち300百万米ドルは中国輸出入銀行の融資，15百万ドルは当国政府が拠出。

・20日より，国道6号線ベイラ～インショーペ間部分的改修工事が開始される見込み。費用は推定135百万メティカル。同国道の利用率は1日平均トラック約3,000台，内陸諸国からベイラ港への運輸が占める。

・中国輸出入銀行は３０日，マプト－カテンベ間の橋梁建設プロジェクトのために「モ」政府に７２．５百万ドルの融資の手続きを行った。モザンビーク財務省によると，同額は，建設に必要な総額の１０％に相当する。同融資の署名は，マヌエル・シャン財務大臣と朱シンクランガ（Zhu Xinqulanga)同銀行副総裁との間で北京にて行われた。同橋梁はマプトと，マプト湾を挟んで対岸に位置するカテンベの間を結び，現在はフェリーによる移動となっている。また，同プロジェクトは，今後マプト市から南アに境界を接するポンタ・デ・オウロ間の道路建設も視野に入れたもの。

（７）通信・地デジ

・31日，マプトにて開かれた国際デジタル・テレビ会合の冒頭においてサイーデ運輸通信副大臣は，2013年以降，当国が同システムの試験的導入を実施する予定である旨表明。正式な導入プロセスは2014年開始の予定。

（８）労働関連

・1日労働者の日に際し，ザンダメラ中央労組代表は，国内労働者は今次最低賃金改定に満足していない事実に基づき，対話を通じた問題解決，合意達成への決意を表示する機会となる旨強調した。

**４　経済協力**

（１）科学技術・教育

・　18日，ソファラ州教育文化省は公共事業の不履行（2005年から2010年で274教室の建設の不履行）を理由として，35事案に関わる企業を起訴したことを発表した。同省によると，ソファラ州は「モ」で最も教室建設の契約履行率が低い州であり，契約不履行の企業に対しては法的処置のみならず，新規案件の受注禁止等厳重に対応することが検討されている。また今年度98教室の建設が予定されているが，受注業者には銀行保証の提出を義務付けることで，建設終了後に満額支払いを行うことを予定している。

（２）環境・水

・ゲブーザ大統領は，マニカ州を訪問し，オランダ支援で設置された水給水システムを視察した。同支援は45百万ユーロで，対象地域の35,000人に安全な水を供給している。

・4日，世銀は「都市と気候変動プロジェクト」を発表し, 企画開発大臣と12百万ドルローンの署名式を執り行った。同プロジェクトは，6年間の計画で，「モ」政府の気候変動問題に対するキャパシティー強化や,環境管理・都市サービス計画に関する支援を行う。特に，洪水や浸食被害が大きいベイラ，マプト，ナカラ地域において，都市・環境計画，都心土地管理，都市インフラ修理等の支援を計画している。

・7日，アイルランドは5百万ユーロで気候変動への支援を発表した。同支援は，政府の環境セクター支援プログラムⅡ（ESPSⅡ2011-2015）の戦略に基づいてEUのイニシアティブであるグローバル気候変動同盟（GCCA）及びデンマーク（DANIDA）と共同で支援を行う。

（３）保健

・14日，USAIDは保健セクター・インフラ開発プログラム（HIDP）の支援を目的に，2012-2016の5年間で6,000万ドルの支援を行うこと発表した。保健省は保健センターの数を現在の1,000カ所から1,400ヵ所に増やすことを計画している。HIDPでは，今後5年間で200カ所の増設を進めている。2012年はそのうち16カ所（テテ州に6カ所，ザンベジア・ナンプラ両州で5カ所ずつ）での建設を予定している。また，HIDPは全国で計20カ所に薬局施設を，またマプト州に保健科学訓練センターの建設を予定している。

(４)　農業･水産・観光

・ショクエ灌漑システムのうち，1万ヘクタールが整備される予定。ゲブーザ大統領がショクエを訪問した際に明らかになった。政府関係者は，中国政府からの支援を検討している旨述べているが，詳細は未定。

・21日，日本政府が実施する2011年の食糧援助（630百万円）の代理調達契約が署名された。国内の米消費需要の約67％にあたる年間約36万1千トンの米が不足しており，今般の援助は「モ」における食料安全保障に貢献する。

 (５)　道路・インフラ

・今年2月中旬，アリ首相，橋本在「モ」日本国大使，アフリカ開発銀行代表他の臨席の下，ナンプラ～クアンバ間道路改善計画（約200百万米ドル）の起工式が実施された。同プロジェクトに関し，地域住民は，交通・運輸の改善，生活向上等に大きな期待を寄せている。また，同道路改善がProSAVANAの効果を促進する一要素となると期待されている。

(６)　援助協調

・6日，ドイツは2013年の対「モ」への支援として総額24.5百万ユーロを発表し，うち9百万ユーロを一般財政支援に，4.5百万ユーロを行政裁判分野，税務分野，市民団体への支援に，13百万ユーロを気候変動への適応対策の支援に向けるとした。

・8日，一般財政支援ドナー・グループであるG19は2011年の年次レビューにおいて政府の実施成果を「満足できる」と評価し，2013年の一般財政支援を引き続き行うことを表明した。一方で，汚職対策，採鉱企業と政府との契約内容の公開等を含めた公共行政の透明性の向上，教育分野戦略計画の実施促進に関し政府の更なる努力を求めた。

・23，24日，「モ」政府と北欧5か国（ノルウェー，デンマーク，スウェーデン，フィンランド，アイルランド）は包括的経済成長と社会正義における協力強化のための会議を開催した。同会議では，主に雇用創出と経済変換，天然資源管理における透明性と説明責任，税制と国家建設をテーマに協議が行われた。

（了）